



第 10 号

発行 那覇市国際通り県庁駅前商店街振興組合会報
平成25年1月発行
発行責任者 那覇市国際通り県庁駅前商店街振興組合青年部



謹賀新年
「住んでる人も訪れる人も元気になる商店街」
大きな飛躍の年となる事を祈年して！

新年明けましておめでと
うございます。会員の皆様には平成二十五年の新春をご健勝でお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。
国際通りにおきましては、昨年一万人のエイサー踊り隊や、ミックスマウスに興奮した那覇大綱引きまつりの民俗芸能パレードなどが実施されました。また県庁駅前商店街においても、トランジットモールや、通り会で開催した多くのイベントとおして、観光客のみならず、地域のお客様とのふれあいもはかれたことと思えます。
本年もまたさまざまな催し、コンベンションなどが県内で開催されます。

数多くの観光客、そして地元のお客様に通りを楽しんでいただけるよう、県庁駅前商店街が一丸となって、「住んでる人も訪れる人も元気になる商店街」を目指し、さらに魅力ある商店街へと発展させていきますよ。

この一年がみなさまにとって実り多い年となることを祈念するとともに、会員の皆様をはじめ、関係各位の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。
那覇市国際通り県庁駅前商店街
理事長 真喜屋 稔

第4回 笑顔・笑顔のクリスマスコンサート 2012年12月16日開催しました！

沖縄県労働金庫(ろうきん)様が協賛の本イベントも今回で4回目。天気にも恵まれ、今回も多くの出演者のみなさまがステージを盛り上げてくれました。ポップコーン、わたあめ、風船の無料プレゼントには子供たちも大喜び。クラウンコトラとのジャンケン大会では、子供たちに負けじと大人のみなさんも大はりきり。たくさんの笑顔が咲いたクリスマスコンサートでした。



国際通り今昔物語 「新春特別寄稿」

明けましておめでと
うございます。今年こそ商売繁盛の年でありませう。祈ってやみません。昨年は経済不況で中小企業にとって苦しい年でしたが、昨年未誕生した新しい政権に多くの経済界の期待を受け、株価も一円円の太気に乗り、ドルに対する円も九十円台に近づき明るい光が差し込む新年だったと思えます。
1月中には今年の予算の大枠も決まるでしょう。緊急経済対策も10兆円規模を検討しているとの報道もあり、経済の見通しは明るい。那覇空港第二滑走路や交通体系の見直しも検討に入っているとのこと、今年には観光客のほかに業界の方達の動きも活発になると思えます。国際通り商店街にも大きな商機は多く訪れると思えますので、チャンスを逃さず準備を整えることも大切です。
今回観光庁の調査で、全国の観光地での満足度調査では沖縄県が29.5パーセントでトップでしたが、これに奮ることなく世界中から訪れる方達に感動を与える国際通りとして頑張りましょう。

F Mラジオパーソナリティ
浦崎政克

那覇市新庁舎が完成！

総数「四千二百名」
経済効果に大きな期待！

平成21年9月に仮移転した那覇市役所の本庁舎が、約2年2ヶ月を経て本拠地の泉崎に戻ってきます。市役所新庁舎は、地上12階地下2階の建物で、現在銘苅庁舎で業務を行なっている土木・建設部局及びとまりんに入居する教育委員会を含めた(水道局と教育委員会の一部を除く)総合庁舎となり、市民の皆様や県庁駅前商店街振興組合のみならず、市民の皆様にも便利になり、また一昨年の東日本大震災を教訓として災害時の防災拠点として



の機能を持つなど、全てが新しく生まれ変わって泉崎に戻ってきます。
今回の庁舎は、総合庁舎となるため、職員が約1500人、そして1日あたりの来庁者数も約27000人(推定)と大勢の人が市役所に集まってくる。しかし、一方で今までの市役所は駐車場が狭いため、平日は交通渋滞を招いていました。新庁舎では地下2階は全て駐車場として約230台を収容できます。また、総合庁舎になること、また長時間駐車や目的外利用を防止・抑制を図り、周辺の渋滞緩和のために、市役所駐車場は、有料となります。もちろん、障がいのある方や予防接種など免除対象となる場合もありますが、基本的に、すべて有料となります。

また、平成25年4月に那覇市は、「中核市」となります。中核市とは、政令指定都市に次いで事務権限を多く持ち、県で行っていた業務(約2900項目)を市が行うことになり申請手続きが短縮されるなど、より市民ニーズに沿ったきめ細かいサービスが提供できるようになり

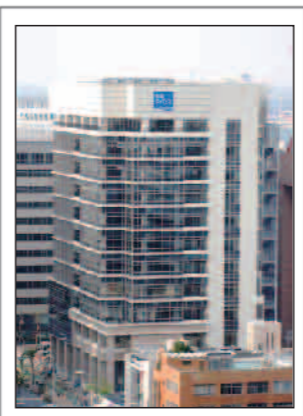
また、平成25年4月に那覇市は、「中核市」となります。中核市とは、政令指定都市に次いで事務権限を多く持ち、県で行っていた業務(約2900項目)を市が行うことになり申請手続きが短縮されるなど、より市民ニーズに沿ったきめ細かいサービスが提供できるようになり

久茂地に発信の拠点 タイムスビル完成！

ひときわ目立つ存在

沖縄タイムス新社新社屋がこのほど完成しました。久茂地交差点にそびえ立つ地上60メートル、12階建てのタイムスビルはひときわ目立ち、情報発信の拠点として、那覇市のランドマーク的存在となつていきます。ビルにはタイムスグループのほか、各種テナントも入居し、総勢数百人の人たちがこのビルで働くこととなります。

■充実した設備
1階は旧社屋同様、県道側



に玄関を配置したエントランスとなっております。国道58号側には、コンビニエンスストアの「ローソン」、オキコストアの運営するカフェ「SHINKA」が入居します。エントランスからエスカレーターで上ることのできる2階は「タイムスギャラリー」があります。写真や絵画の展示など幅広く活用する予定で、一般客の来客も歓迎しています。

3階は旧社屋以来、約10年ぶりの復活となる「タイムスホール」を整備。358席の移動観覧席など、充実した設備を擁するホールとして、積極的に貸し出していきます。
4階はNAHAMARASON事務局などが入居。5階は沖縄タイムスサービスセンターの事務所やカルチャーセンター、タイムスアド企画が入るほか、貸会議室もあります。
6階から9階はテナント

各種事業展開

移転直後から、タイムスビルはフル稼働します。
1月下旬からは、広々とした「公開空地」やエントランス、ギャラリー、ホールを連動させた市町村の物産展や芸能公演も企画検討されています。

今後、タイムスビルが地域を支える拠点として県民に親まれ、多くの人が集う場となるよう、積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、これからもグループ一同よろしくお申し込み申し上げます。

